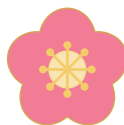


しゃきよう

おおいそ

新年号



No.122

2016 Jan

社会福祉法人 大磯町社会福祉協議会

〒255-0003
大磯町大磯1352番地の1
大磯町立福祉センターさざれ石内
電話 0463-61-9390
FAX 0463-61-7614
URL <http://www.oiso-shakyo.jp/>

しゃきよう
社協とは社会福祉協議会の略です

ボランティア交流会を開催しました！



平成27年11月25日、「ボランティア交流会」を開催しました。

各ボランティア団体から29名が参加し、修善寺竹林の小道を散策したり、みかん狩りをしました。皆さん交流を深めながら一日を楽しみました。

年頭のごあいさつ

大磯町社会福祉協議会

会長 見玉 佐安子



新年あけましておめでとうございませう。

輝かしい新春

をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、社会福祉協議会のさまざまな事業の推進にあたり、地域の皆さまの温かいご賛同を賜り、心より感謝申し上げます。

今年の大磯町社協は、「大磯町ファミリー・サポート・センター事業」や「朝の子どもの居場所づくり事業」といった新たな事業を開始します。今まで以上に、より幅広い世代の皆さまに大磯町社協を活用していただきたいと思います。

また、地域の皆さまが安心して暮らせるよう、「ささえあい、こころのふれあうまちづくり」を目指し、役職員一同、本年も一層努力してまいります。皆様のご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、地域の皆さまがご多幸の一年になりますよう、ご健勝と更なるご活躍を祈願いたします。

第26回大磯町社会福祉大会が開催されました

大磯町社会福祉協議会では、10月24日(土)、第26回大磯町社会福祉大会を開催。
式典では福祉功労者の表彰や大磯町福祉作文コンクールの受賞者の表彰が行われました。
また、当日のプログラムについては、実行委員の検討のもとすすめてまいりました。
今年は天候にも恵まれ、沢山の方にお越しいただき大変にぎやかな大会となりました。
ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

福祉活動功労者の表彰と感謝

今年は、34名ならびに1団体への表彰をいたしました。



表彰を受けられた皆さま

表彰

(敬称略 順不同)

永年にわたり社会福祉活動の発展に寄与されました

湯口 正毅・山田 節子・渡邊 久之
遠藤 弥生・玉田 美知子

永年にわたりボランティア活動を通じ社会福祉の発展に寄与されました

長谷川美枝子・宇野 誠治・岩野 徳枝
安江 貴子・井上 道子・西海 栄喜繁
大胡 政男・新見 紀雄・間宮 栄子
岩澤 満寿子・池田 和子・山田 節子
浅川 陽子・小島 喜代子・小林 佳代子
河面 由美・佐藤 哲雄・安部川カヨ子
曾根田市江・岩澤 ツヤ子・高橋 春江
熊澤 キヨ子・河並 美津子・今井 かほる
簗島 美登里・黒木 紀子・小島 節子
原田 美和子・石田 洋子

社会福祉活動に貢献されました

- 足柄上地区更生保護女性会

福祉作文コンクール入選者

町内の小中学生51名が応募。8名が入選に輝きました。

小学生の部

(敬称略)

賞および作品名	学校名・氏名
大磯町社会福祉協議会長賞 『障害のある人、お年寄』	大磯小学校6年 武山 知雅
神奈川県共同募金会大磯町支会長賞 『見て聞いて感じて』	国府小学校6年 吉川 知花
佳作 『未来へ続く大磯町』	大磯小学校6年 後藤 雅博

中学生の部

(敬称略)

賞および作品名	学校名・氏名
大磯町社会福祉協議会長賞 『誰もが生きやすい社会』	国府中学校3年 小林 凜
神奈川県共同募金会大磯町支会長賞 『老人ホームで学んだ笑顔の大切さ』	国府中学校3年 仲川 茉優
佳作 『偉大なおばあちゃんだから』	国府中学校3年 力久 望
佳作 『中学生ができること』	大磯中学校3年 土谷 天楠
佳作 『ほんの少し』	大磯中学校3年 高橋 茜



福祉作文コンクール受賞された皆さま

「第26回大磯町社会福祉大会」のようす



大磯町福祉作文コンクール、福祉功労者の表彰を行いました。

アトラクションにて大磯小学校合唱団・ドルフィン＆ブルーエコー（シニア合唱団）の演奏。素敵な演奏をありがとうございました。



屋外会場では施設・ボランティア団体による出店・展示を行いました。



2015年10月24日(土)

福祉作文コンクール

大磯町社会福祉協議会会長賞 作品紹介

障害のある人・お年寄

大磯小学校六年 武山 知雅



私は、耳に障害のある人と手話という手の動きだけで会話をすることを一緒に教えてもらいました。その時は、自分の名前をやったり、数字を表したりする手話をやって、最後は紙しばいを手話やジェスチャーなどでやってもらいました。とても面白くて拍手をしましたが、聞こえないんだと思うと、とても悲しくなりました。手話にも拍手があるから、手話の拍手をやったらとても笑顔になってくれました。なので手話を覚えて耳に障害のある人とコミュニケーションがとれるようになっていきたいと思います。

学校でお年寄りの体験「高齢者疑似体験」をやって、足におもりを付けたり、めがねなどを体につけて歩いたり、問題を解いたり、いろんなことをしました。私はこの体験をして、自分はいつも歩いたり、走ったりすることが普通だったけど、お年寄り（高齢者）にとってはとてもつらくて、大変なことだと分かったし、目が見えないのは一番つらいと思いました。

目に障害のある人が「点字ブロック」や「点字」を使って、歩くなどをしています。私は、点字ブロッ

クの上を歩いている人や点字ブロックの上に自転車を置いたりしている人が多くいると私は、思います。そのため、もし私・僕がその立場になったらどれだけ大変かを考えてもらいたいと思いました。また、こういうことがなくなるにはどうすればいいかを考えることも大切だと思います。

ほかに、認知症の病気があります。認知症は年々増加傾向です。認知症という病気では、今の医学では治らないそうで、またこの病気が自分が今どこにいるのかや今やったことを覚えていなくなったり、自分の名前や親せきの名前を忘れてしまったりする病気で、私の親せきにも、認知症の人が突然おこりだしたり、口調があらくなったり、するので認知症の人はこわいと思えました。また、最近認知症の人が突然いなくなったりすることをよくニュースで聞くので、なくなってしまうと思います。

私は、この福祉新聞でまた、色々なことを学びました。障害のある人やお年寄りは、私が調べた病気・障害のほかにも、もっといろんな病気・障害があり、とてもつらいと思います。私のおじいちゃんや脳こうそくで左はんしんをまひして、大変そうでした。だから私は、そういう人を助けたいので、将来、看護師になっていろんな人を笑顔にしていきたいです。

誰もが生きやすい社会

国府中学校三年 小林 凜



僕が福祉のことについて作文を書くと思った理由は、兄がダウン症という障害をもっていて、毎日関わりがあるのでそのことについて書きたいと思ったからです。

他にも理由はあって、兄の通っている施設の納涼祭に行ったことがあって、そこには兄以外のたくさんの方々がいて、人によって様々な特徴があることに興味をもったからです。

障害者は兄だけではなく、兄を具体例として書きます。兄はしゃべるのが苦手で、僕は毎日話しているのだからわかるのですが、初めて話す人や、兄とあまり関わりがない人としてしゃべっているのを見ると相手が理解できなくて無視されてしまうことがあります。でも長所もあり、あまりコミュニケーションがとれなくても、なぜかその場を明るく空気にすることができ、人と関わるのが好きで、誰にでも積極的に話しかけたり仲良くすることができ、特に困っている子や、泣いている子に優しく声をかける気ができます。これは兄だけの長所ですが、他の障害者の人達もそれぞれの長所、特質があるはずです。自閉症の、ある大学教授が「ある者は数字に強く、ある者はコンピュータの操作に優れている、そしてある者は絵を描くことに、それぞれ特別な特徴をもっている、それを見出し、社会の中で必要とされる場所に居させ、その能力を最大限に活かすこ

とができる社会になってほしい。」と、テレビ番組で言っていました。障害をもっているからと言って他の障害をもっていない人と別の事をしなくても、その人の優れていることを活かしていけば皆と同じことができるように変わっていくと思うし、むしろそれが活かせないのはもったいないと思いました。

また、僕たちがあたり前に使っている物も障害のある人たちの視線で見ると不便なものもいくつもあります。例えばスロープ。スロープは障害のない人が作るもので、その人自身がこれでよしと思っても障害者の人から見ると急すぎてのぼれなかったりします。文字を読むのが苦手な人に対しては一目でわかるイラストで、わかりやすいようにしてあげる必要があります。例えば、駅などで切符を買うとき、障害のない人はわからなくてもそこでできた文字を読むなり、駅員に聞くなりできますが、障害者はそれをするのが難しい人だったりします。なのでわかりやすいようにイラストをつけたりすることが必要だと思います。また、そのことが優れていることにつながると思います。障害者に優しいということはずなわち障害のない人、とくに子供やお年寄りにも優しいということなんです。このようなことから自閉症のある大学教授の言っていたような社会に変わってほしいと強く思いました。またこういう社会に変わっていくことで誰にも優しく、誰もが生きやすい社会になるのではないのでしょうか、これが福祉というのではないのでしょうか？

(敬称略)

大磯町社会福祉協議会では、福祉センターさざれ石に隣接する土地を所有しました。

ご意見
アイデア
ください!

この土地の活用について、皆様のご意見・アイデアをいただききたいと思います。

土地のスペースとして、現駐車場より奥（南海側へ）約100坪を活用。

たくさんのご意見・アイデアをお待ちしております。

ご意見募集期間 平成28年1月30日まで

社協としては、心温まる交流の場としてこのように考えます

例えば…

- ミニデイサービスとして
- 町民の皆さんが気軽に集まれるいこいの場「ティーサロン」として
- 宅配サービスを50食から100食を目標に増やせるような拠点として

お問い合わせ先 大磯町社会福祉協議会 TEL61-9390

地区ボランティア活動報告

国府新宿地区ボランティア「桜の会」



12月11日、毎年恒例の「桜の会 クリスマス会」が行われました。

当日の会場は大勢の方であふれ、お昼のひとときを楽しまれていました。

国府新宿地区ボランティアは、高齢者の居場所、心と体の健康保持増進のために、ふれあいと交流の場づくりに取り組んでいます。

大磯町社会福祉協議会 新事業のお知らせ

「大磯社協ケアプランセンター」(居宅介護支援事業所)のご紹介



角川ケアマネジャー

居宅介護支援事業所とは介護保険の事業所で、要介護1から要介護5の方が在宅生活を安心して送っていただくために、ケアプランの作成、介護の相談を行うところです。

11月1日より開所いたしました。どうぞご利用ください。

大磯町社協に勤めて早5か月

大磯町社協内に11月から開始しました居宅介護支援事業「大磯町社協ケアプランセンター」にて介護支援専門員をしております角川です。

丑年生まれですが、猪突猛進型、機転が利かず、あっちにぶつかり「あら、間違えた」こっちにぶつかり「反省、反省」の毎日ですがめげないのがとりえです。よろしくお願いします。

8月1日から11月30日まで
に次の方々から大磯町社協に
ご寄付をいただきました。福
祉活動のために大切に使用
させていただきます。

【寄付金】

(敬称略・順不同)

● 悠悠苑

● 久保田酒店

合計2件

総額34,865円

● 匿名

合計1件

総額10,000円

【寄付物品】

● 竹内美智子(大型鏡一式)

● 匿名 合計7件

(衣類、紙オムツ、紙パンツ、
尿とりパッド、ポータブルト
イレ、ボール、五島市特産品

マックスバリュ東海株

マックスバリュ二宮店

(車椅子)

(車椅子)



マックスバリュ二宮店様より

皆様からの心温まる善意、ありがとうございます。

あ り が と う



ともじ運動

傾聴ボランティア 養成講座のお知らせ

「傾聴」とは、相手のお話を“聴く”ことです。
その技術を学び、施設などでボランティア活動
してみませんか！

と き 全4日(その他1日施設実習あり)
2月1日(月)、2月8日(月)、2月15日(月)、2月29日(月)
いずれも10:00～12:00

ところ 福祉センターさざれ石

参加費 500円(資料代)

対 象 町在住の方。全日程受講可能な方で、講座終了後、
傾聴ボランティアとして活動していただける方。

■問い合わせ・申し込み

大磯町地域包括支援センター TEL 61-9966

県福祉大会で表彰を受ける

10月15日に第64回神奈川県社会福祉大会が県立
音楽堂で開催され、授与式が行われました。

神奈川県共同募金会会長感謝

● 中村 雅一さん

受賞おめでとうございます。



活動紹介 「傾聴ボランティアほほえみ」



「ほほえみ」メンバー

「傾聴ボランティアほほえみ」は傾聴ボランティア養成講座の修了生でつくられたボランティアグループで、現在町内福祉施設を中心に傾聴活動を行っております。傾聴に興味のある方、ぜひ養成講座を受講していただき一緒に活動しましょう。

＊編集後記＊

毎度、しゃきょうおおいそをお手にと
っていただきありがとうございます。
また平成27年も作成にご協力頂いた皆
様に感謝申し上げます。

本年も皆様に元氣をお届けできるよ
うな紙面づくりを目指していきたいと
思いますので、どうぞよろしく願い
いたします。